



# 婦人と子ど

## 第六卷第九號

### 婦人と成功

人生婦人となる勿れ一生の苦樂他人に依る、と云つたのは昔し之事。今は明治聖代の御代男女同權論も出て女子の判任官も出来る時節女子とて馬鹿にしたものでもなし。我こそ一件の成功と云ふものして見せんと。或は下田歌子或は奥村五百子など云へる女丈夫を夢みることに強ちに惡ろしとも云ひ難けれど。所詮は家庭の女王たる可き天職を貰へる身、其成功と云ふ可きものも畢竟家政と育児に遠ざかる間敷ものと云ふを得可けんか。云ふ勿れ「人生婦人となる勿れ」と又信する勿れ「一生の苦樂他人に依る」と世に多くの家庭は其主婦の爲めに浮ぶ瀬なき非運に陥りつゝあるもの頗る多し。之に因つて之を見れば一生の苦樂他人に依らざるのみならず、却つて幾多家族の苦樂を其手中に握れるものと云ふことを得べし。或は云ふ婦人の一生は男子の夫れに比して一層苦辛多しと。蓋しかつたのかさ羨みに過ぎざる可く然も戀性男子としての女子の獨立的生活が遂に憐れむ可き大なる悔いを齎らすことを知らざるは愚と云はんか狂と云はんか吾人之を知らず。

(湘南)